

平成22年度「健康日本21」の計画について

日時	事業	主な連携団体等
6月 6日	世界禁煙デーキャンペーン (天神地下街 イベントコーナー) 参加人数 1,547人 (薬物乱用防止啓発展と同時開催)	健康づくり財団、医師会、歯科医師会、薬剤師会
6月	食育月間パネル展 7保健所及び本庁舎で5日間パネル展示(パネル24種類)	福岡市、食生活改善推進員協議会
8月	本市所管の公共施設における受動喫煙防止対策調査	-
	●「シンク・ヘルス・プロジェクト～健康について考える秋～」 (福岡市健康づくり月間)	健康づくり財団、企業、大学等
9月 30日	●健康づくり・スポーツに関するポータルサイト開設 福岡市の健康づくり・スポーツに関する情報を一元的に提供するホームページを開設	-
1～ 29日	「各区健康フェア」の行事 各区保健福祉センター等で講演会・展示会・総合検診・ウォーキング大会などの「健康フェア」を実施	各区健康づくり実行委員会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、自治協議会、衛生連合会、食生活改善推進員協議会など
1日～	●ヘルシィ☆オフィス・プロジェクト 10分ランチフィットネス(都心部で働く人たちがそのままの格好で、誰でも簡単にできる10分間の運動プログラム)を天神各所でモデル実施。	講師:ｽﾀｲﾙ ﾏﾞﾗﾝ ﾃﾞｲ 森山暎子氏
3日	「骨と関節の日」講演会(あいれふホール)	健康づくり財団
9日	福岡市健康づくりセンター市民公開講座 「食と健康」(あいれふホール)	健康づくり財団
9日	福岡市小児医療研究基金記念講演会 「小児医療の現状と課題」(西鉄ホール)	こども病院・感染症センター
23～ 24日	福岡市健康フェア2010 健康日本21福岡市計画キャンペーンイベント ・健康チェック ・体験イベント等(市役所北側緑地)	健康づくり財団、看護協会、栄養士会、臨床検査技師会、歯科医師会、九州スポーツクラブ協議会、食生活改善推進員協議会等
25日～	●福岡・釜山健康づくり交流事業 姉妹都市である福岡市と釜山市の市民100名ずつが3ヶ月間健康づくりを競い合う事業を開始	福岡大学、医師会、商工会議所、健康づくり財団、日本ウォーキング協会、NPO団体他
31日	第13回シティウォークinふくおか (ヤフードーム・シーサイドもち) (シティ・マラソン福岡2010と同時開催)	健康づくり財団、福岡健康ウォークの会、医師会、薬剤師会
11月 7日	ふくおか市民糖尿病教室(あいれふ)	医師会、栄養士会福岡支部、薬剤師会、歯科医師会、福岡糖尿病療養士会、日本糖尿病協会福岡支部、健康づくり財団、日本健康運動士会福岡県支部、西日本新聞社
2月	「生活習慣病予防月間」行事 区保健福祉センター等で講演会、ウォーキング大会等のイベントを実施	各区健康づくり実行委員会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、自治協議会、衛生連合会、食生活改善推進員協議会など
	健康食パーティ 2月の生活習慣病予防月間に健康食に関する講演会と食事会の開催	食生活改善推進員協議会

●は新規事業

「ヘルシー・シティ・アプローチ」について

市民の健康づくりへの取り組み促進及び健康日本21福岡市計画推進にむけ、平成21年度に行ったヘルシー・シティ・プロモーションに関する検討に基づき、平成22年度に以下の新規事業を実施。

1 「シンク・ヘルス・プロジェクト～健康について考える秋～」

(福岡市健康づくり月間)

10月の「福岡市健康づくり月間」を市民にアピールし、「健康日本21福岡市計画」の周知と市民の健康づくりへの取り組みを促進するため、行政、企業、大学など様々な事業主体と連携し、市内全域で健康づくり関連事業を集中展開する。

(実施内容)

行政 福岡市健康フェア、各区健康フェア、シティウォーク in ふくおか等
大学 福岡大学ニコニコ健康づくり講座 2010
企業 九州スポーツクラブ協議会加盟店による体験会、
天神 Think Health Project

2 健康づくり・スポーツに関する情報発信の一元化

健康づくり・スポーツに関する情報を、新たに開設するポータルサイトに集約し、情報発信の一元化を図る。

(実施内容)

4月～3月 関係課及び専門業者によるワーキング
9月末 テスト版の開設
3月 本格稼働

3 健康ふくおかマイレージ検討事業

市民の健康づくりの取り組みをポイント化し、還元する仕組みの検討を行う。

(実施内容)

先進地調査、事業検討

4 福岡・釜山健康づくり交流事業

姉妹都市である福岡市と釜山市がともに健康づくりに取り組むことを通して、健康づくりの重要性とアジアに開かれた福岡市を内外にアピールする。

(実施内容)

4月 実行委員会発足
10月 参加者募集・決定(福岡市)
10月～1月 プログラム実施(福岡市)
2月 結果発表、表彰

5 ヘルシィ☆オフィス・プロジェクト

健康づくりスポーツ活動の市民運動化のための中心的な取り組みとして、運動・スポーツ実施率が低い勤労者層を対象に、その健康づくりスポーツ活動の促進のための方策を、官民協働で実施・検討するもの。

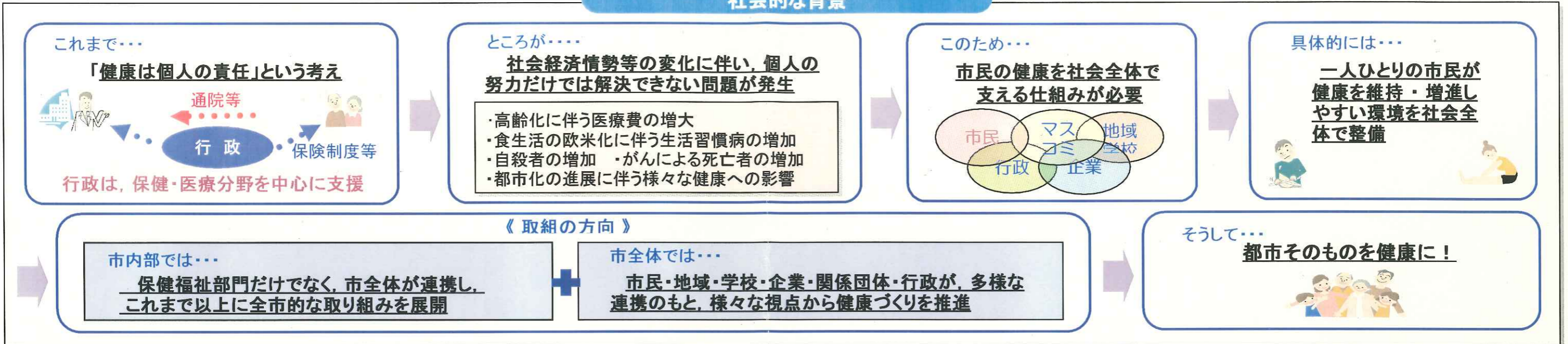
(実施内容)

検討テーブルによる検討、イベント開催(10分ランチフィットネス)

福岡市における健康づくりの取組みについて (社会的背景と現在の福岡市の取組み状況)

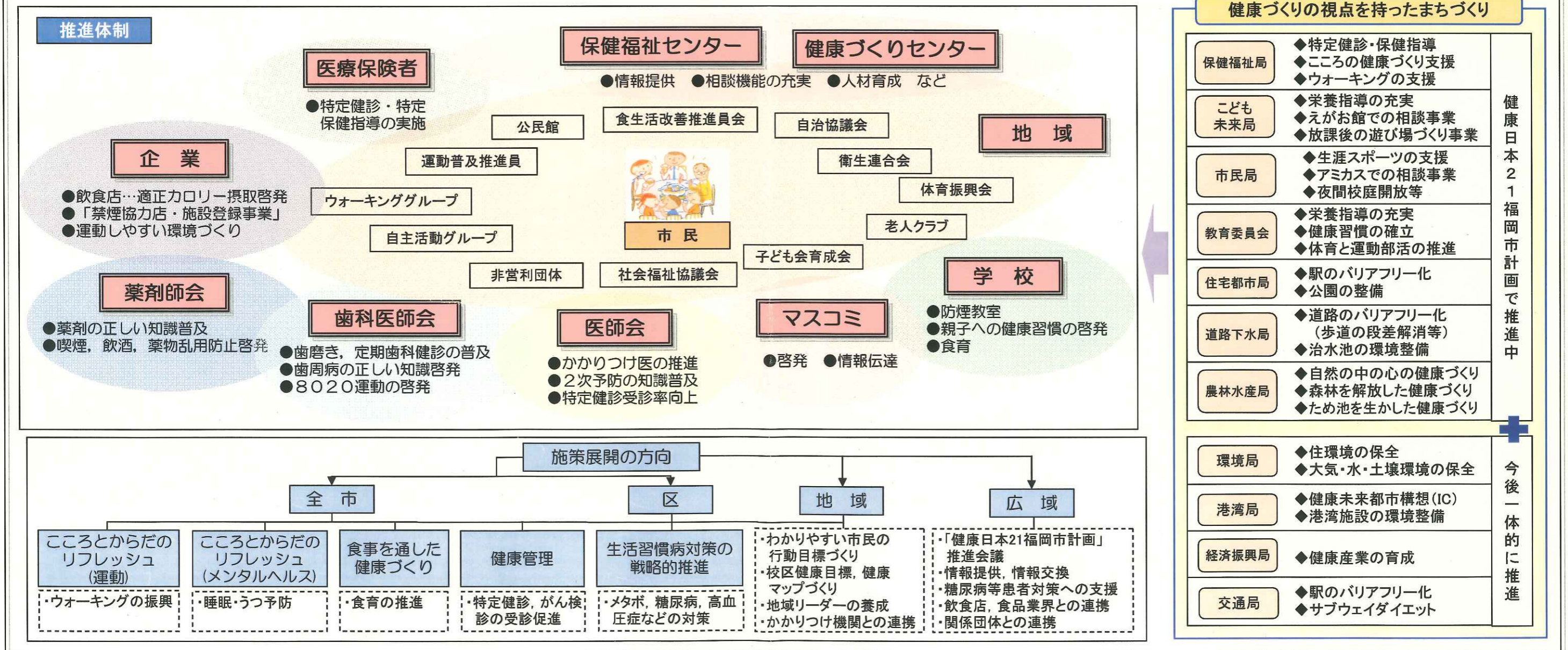
(平成22年3月)

社会的な背景



福岡市の現況

健康日本21福岡市計画の推進



福岡市における健康づくりの取組みについて（今後の方向性）

ヘルシイ・シティ・アプローチ ～都市そのものを健康に！～

福岡市の特性

◆脅威

- 本市の国民健康保険において、次の3つの評価基準を達成できない場合は、最大10%の後期高齢者支援金が加算される（20億円相当）。
 - ・平成24年度末の特定健診の受診率が65%以上
 - ・特定保健指導の実施率が45%以上
 - ・メタボリックシンドロームの患者や予備群が20年度と比較し10%以上減少していること

◆弱み

- 医療費の高さ（老人医療費～全国821千円/人、本市1095千円/人【H18】）
- 国民健康保険料の高さ（所得233万円3人世帯の場合443千円～指定都市中上から2番目【H20】）
- 介護保険料の高さ（H21.4月以降の保険料～指定都市中7番目と中位）
- 特定健診受診率（国保）の低さ（指定都市平均25%、本市15%【H20】）
- がん検診受診率の低さ（H24年度目標値50%以上～胃がん9.0%、子宮がん16.3%、乳がん8.3%、大腸がん7.3%【H18】）
- 健康づくり実践度の低さ（新・基本計画の目標65%、調査結果57.3%【H19】）
- 自殺率の高さ（対人口10万人～全国23.7人、本市24.8人【H18】）

◆機会

- 新型インフルエンザの発生による健康への関心度UP
- 特定健診・特定保健指導の実施を契機とする健康への関心度UP
- 一部企業における健康への興味の高まり
- 健康食品ブームを始めとする健康意識の高まり
- エクササイズ映像ソフトウェアのヒットなど健康への関心度UP

◆強み

- 医療機関数、医療施設従事医師数の多さ（対人口10万人～（指定都市中上から）病床数3番目、医師数1番目【H18】）
- 高齢化率の低さ、若者の比率の高さ（高齢者人口率～国20.1%、本市15.2%、生産年齢人口率～国65.8%、本市70.2%【H17】）
- 平均寿命の高さ（指定都市中～男6位、女2位【H17】）
- 小学校区を中心とした健康づくり推進体制の確立（144校区中142校区に「健康づくり実行委員会」が設置済）
- 豊富な国際スポーツ大会の開催経験
- 野球、サッカー、バスケットなどプロスポーツ球団の本拠地

取組みの方向性

すべての市民が自然に「健康」を意識し、自然に「健康づくり」に取り組むような環境を社会全体で整備

福岡市の特性を活かした「健康づくり」を推進

今後のターゲット

- 働くこと、生活することに忙しく、まだまだ健康には自信があると思っている40～50歳代の層
- そのうち健康づくりに取り組もうと思っているが、きっかけが無く、まだ取り組んでいない層
- 病気になるまで健康には関心が薄い層

これらの層をいかにして振り向かせ、自ら「健康づくり」に取り組むようにするかが重要！

「健康づくり」に関する一大キャンペーンをまち全体で実施（3年間）

CI、キャッチフレーズ、キャラクターの制定

福岡市の重点強化項目

◆特定健診・がん検診受診対策

特定健診の愛称を「よかドック」、がん検診などを含めた総称を「からだ通信簿」とし、啓発に力を入れ、受診率を向上させる。
 ・特定健診目標値65%以上
 ・がん検診目標値50%以上

◆メタボリック症候群・糖尿病対策

- 生活習慣病予防対策（特に適正体重の啓発）
- 糖尿病等の合併症（人工透析等）予防としての継続受診等の支援

★健康づくりセンター事業の再構築

疾病予防を主眼とし、医療との連携を強化した健康づくりセンター事業の再構築

◆地域における自主的な活動の強化

- 健康運動サポーターや食生活改善推進員等のボランティア育成
- 自治協議会や衛生連合会等地域組織と協働し、地域の特性に応じた健康づくり事業の推進

◆健康日本21福岡市計画の周知徹底

- 市民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、健康日本21福岡市計画を周知
- ココロ・カラダすっきりプロジェクトなど関係機関と連携したイベントの実施

◆運動・食育の推進

- ウォーキングの普及
 - ・ウォーキングコースの策定やホームページ等による広報
 - ・サブウェイダイエットと連携した路面距離表示等、特に勤労者層をターゲットにしたウォーキングの推進
- 「福岡市食育推進計画」の推進

民間
アク
シブ
ン
イ
ン
プ
ラ
ン

アクションプラン(例)

恒常的に推進するための仕掛け

- ★健康ポイント事業
健康づくり活動や特定健診をはじめとする健康づくり事業への参加などをポイント化し、貯まったポイントは協賛する事業者のサービスと交換
- ★地下駐輪による健康づくり事業
健康づくり、歩きやすい歩道の確保を目指し、地下駐輪場への駐輪を推進
- ★健康パスポート事業
民間のスポーツクラブやレジャー施設等を相互に利用できる共通パスポートの発行

PR強化を目的とした民間イベントとのコラボ

- ★健康スタンプウォークラリーの実施
地域の回遊ポイントを歩いて回り、スタンプを集めることで、景品等と交換（天神、博多駅、ももち浜エリアでの実施等）
- ★「あ・るっく福岡」の拡充
福岡商工会議所主体の同事業とのコラボにより歩くコースを拡充
- ★福岡・釜山交流ウォーキング大会の実施
ウォーキング大会を相互又は同時に開催し、市民が相手都市の大会に参加するなど交流

（★印は新規事業）

健康づくり応援ネットワーク（民間企業による協力や支援）

資料2-(3)

本市所管の公共施設における受動喫煙防止対策調査の結果について

1 調査の概要

(1)調査の目的

本市所管の公共施設における受動喫煙防止対策の状況を把握し、本市のたばこ対策を推進するための基礎資料を得ることを目的として、調査を実施した。

(2)対象施設

①市庁舎等の事務所 54 施設

②市所管の施設（公民館、公園、図書館、体育館、プール等本市所管の全ての公共施設）
169 施設

③保育所（園） 116 施設（※私立含む。）

④市立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 235 校

(3)調査時点

平成 22 年 4 月 1 日

2 調査結果

区分	敷地内 全面禁煙		建物内 全面禁煙		分煙		分煙 (不十分)		対策なし		合計
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	
①事務所	0	0.0%	37	68.5%	8	14.8%	9	16.7%	0	0.0%	54
②公共施設	18	10.7%	107	63.3%	17	10.1%	20	11.8%	7	4.1%	169
③保育所(園)	110	94.8%	2	1.7%	0	0.0%	2	1.7%	2	1.7%	116
④市立学校	235	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	235
合計	363	63.2%	146	25.4%	25	4.4%	31	5.4%	9	1.6%	574

注1) 分煙：換気設備を備え、喫煙場所以外に煙が漏れない分煙

注2) 分煙（不十分）：空気清浄機の設置のみなど、喫煙場所以外に煙が漏れる分煙

※今後は、受動喫煙防止対策が「不十分な分煙」や「対策なし」の施設が全体として、約7%見受けられるため、各施設においてさらに取り組みが進められるよう啓発に努めていく。

【問い合わせ先】

保健福祉局健康福祉のまちづくり部

地域保健課 担当：平田、永嶋

電話 711-4374（内線 2015）